

鈴鹿市スポーツ推進計画（案）

「スポーツで磨こう！

まちを ひとを そして自分を」

2019（令和元）年9月

鈴 鹿 市

目 次

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	2
3 計画の期間	4
4 アンケート等の実施	5

第2章 鈴鹿市のスポーツの現状

1 市民のスポーツ活動の現状	6
2 子どもの体力, スポーツに対する意識	15
3 スポーツ団体等の活動の現状	17

第3章 推進施策の取組

1 計画のめざす姿	23
2 基本目標	23
3 推進施策	24
4 推進施策の展開	27

第4章 計画の効果的な推進のために

1 計画の推進体制	46
2 計画の進行管理	47

資料編

用語解説	50
------	----

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の趣旨

スポーツは、自らを健康で心豊かにするとともに、活力のあるまちを築くため、大きな役割を果たす力を持ちます。

2011（平成23）年8月に施行されたスポーツ基本法[※]においては、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であるとされ、スポーツは、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上など、国民生活において多面にわたる役割を担うとされています。また、スポーツ基本法[※]に基づき策定された「スポーツ基本計画[※]」では、国をはじめ、地方公共団体、学校、民間事業者など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に総合的かつ計画的に取り組んでいくこととされています。

本市では、2002（平成14）年4月に、「市民一人ひとつのスポーツ」をめざして、「鈴鹿いきいき スポーツ都市」を宣言し、この都市宣言を念頭に置いて、スポーツの推進を図ってまいりました。また、2016（平成28）年4月には、鈴鹿市まちづくり基本条例に掲げるまちづくりの実現をめざすための最上位計画である「鈴鹿市総合計画2023」がスタートし、めざすべき都市の状態に対する成果指標のひとつとして「スポーツをしたり、観戦やボランティアの形でスポーツに関わっている市民の割合」を掲げています。そして、めざすべき都市の状態の成果指標を達成するための具体的な実施手段の方針を示すものとして、単位施策「市民参加型スポーツの推進」、「快適に利用できる運動施設の整備・運営」を設定しています。

さらに、全市的にスポーツ推進の機運が高まる契機として、2020（令和2）年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2021（令和3）年には第76回国民体育大会（以下、「三重とこわか国体」という。）と、第21回全国障害者スポーツ大会（以下「三重とこわか大会」という。）が開催されます。

このような中、スポーツ施策の一層の推進を図るため、本市におけるスポーツの現状を、市民やスポーツ団体へのアンケートなどから把握し、本市のスポーツを取り巻く状況を踏まえたスポーツ推進の基本的な方向性を示す計画の策定を行いました。

本文中に(※)が表記されている用語については、50ページ以降の「用語解説」をご参照ください。

2 計画の位置付け

本市では、1998（平成10）年3月にスポーツ振興のための基本計画として「わがままスポーツマスタープラン」を策定し、スポーツ推進事業を実施してきました。その後、鈴鹿市第5次総合計画の策定を踏まえ、新たなスポーツ環境の変化に対応するため、2009（平成21）年3月に「第2次鈴鹿市スポーツ振興計画」を策定しています。

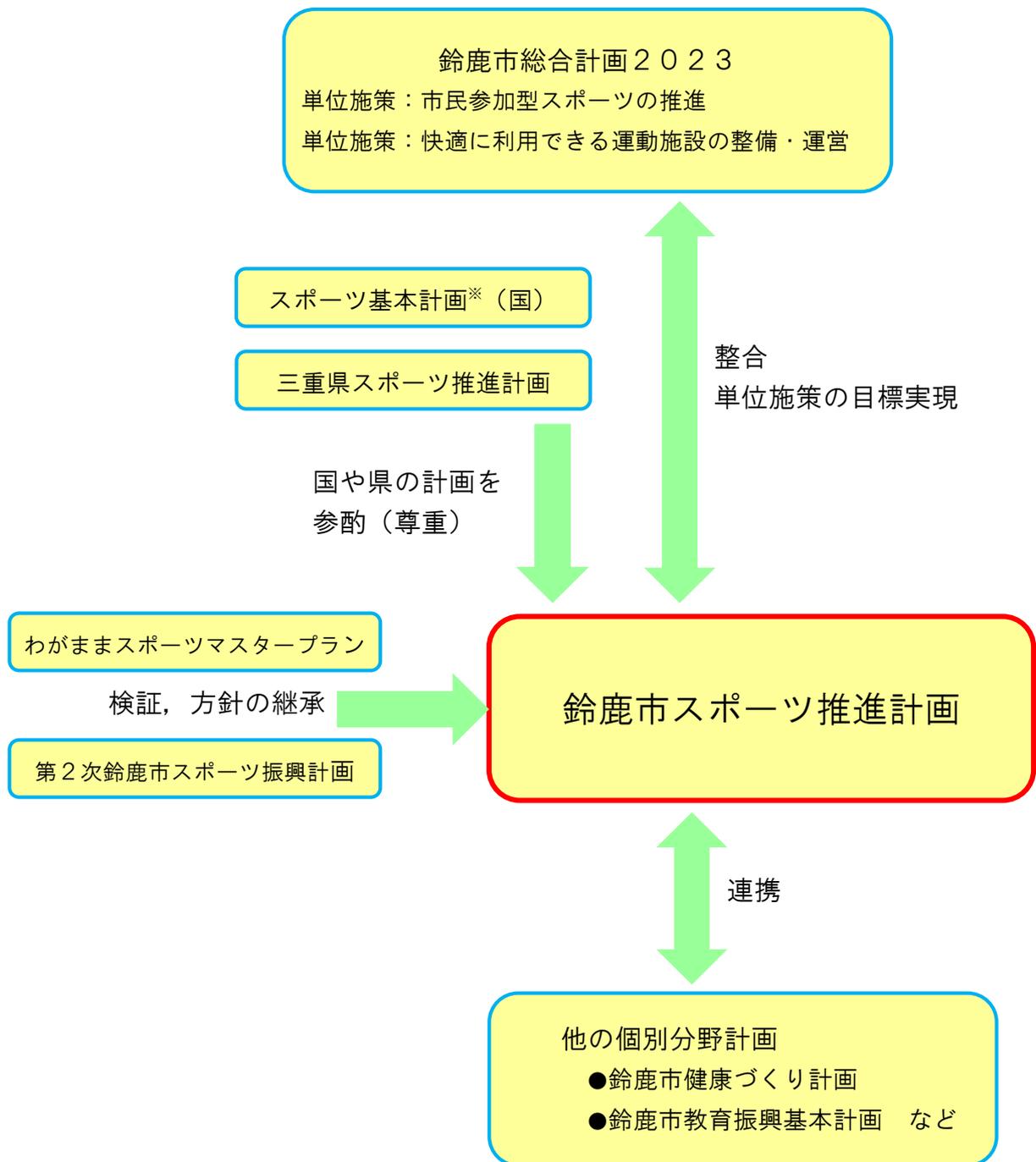
本計画は、「わがままスポーツマスタープラン」、「第2次鈴鹿市スポーツ振興計画」の方針を継承するとともに、スポーツ基本法※第10条第1項の規定に基づき、国の「スポーツ基本計画※」及び県の「三重県スポーツ推進計画」を参酌した本市のスポーツ推進に関する計画です。

また、この計画は「鈴鹿市総合計画2023」のスポーツ分野に係るめざすべき都市の状態を実現するための単位施策を具現化する個別計画として位置付けられるとともに、本市の他の個別計画「鈴鹿市健康づくり計画（事業内容2：健康に関する場の充実）・（事業内容4：健康づくりを支える環境づくりの推進）」、「鈴鹿市教育振興基本計画（施策の基本的方向4：健康への意識を高め、健やかな体をもつ子ども）」などと連携を図り、スポーツ推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的としています。

【スポーツ基本法※第10条第1項】（抜粋）

スポーツに関する事務を管理し、及び執行することとされた地方公共団体の長は、スポーツ基本計画※を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（地方スポーツ推進計画）を定めるよう努めるものとする。

<計画の位置付け>



3 計画の期間

鈴鹿市スポーツ推進計画の計画期間は、「鈴鹿市総合計画2023」との整合性を図るため、2019（令和元）年10月から2024（令和6）年3月までとします。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国	←スポーツ基本計画※（第2期）2017.4~→				
		◆東京オリンピック・パラリンピック競技大会			
三重県	←スポーツ推進計画（第2次）→				
		◆全国中学校体育大会	◆三重とこわか国体 ◆三重とこわか大会		
鈴鹿市	←鈴鹿市スポーツ推進計画→				
		◆全国中学校体育大会 ◆三重とこわか国体リハーサル大会 ◆オリンピック事前キャンプ	◆三重とこわか国体 ◆三重とこわか大会		

4 アンケート等の実施

本計画の策定にあたって、本市のスポーツの現状や課題、要望などを把握するため、次のようにアンケート等を実施しました。

なお、このアンケート等の結果については、その主なものを第2章「鈴鹿市のスポーツの現状」において、記載しています。

(1) 鈴鹿市の運動・スポーツに関するアンケート（市民アンケート）

- ◆ 調査対象 本市在住の18歳以上の方から無作為に抽出した3,000名
- ◆ 回答数 1,233名（回答率 41.1%）

(2) スポーツ団体の活動等に関するアンケート

- ◆ 調査対象 特定非営利活動法人鈴鹿市体育協会（以下「鈴鹿市体育協会」という。）加盟団体（32団体）
鈴鹿市スポーツ少年団登録団体（32団体）
総合型地域スポーツクラブ※（3団体）
- ◆ 回答数 45団体（回答率 67.2%）

(3) スポーツ推進委員の活動等に関するアンケート

- ◆ 調査対象 本市のスポーツ推進委員59名
- ◆ 回答数 31名（回答率 52.5%）

(4) ヒアリング調査の実施

鈴鹿市内の主だったスポーツ団体を統括する組織である鈴鹿市体育協会に対して、現在の取組状況や問題点などのヒアリング調査を実施しました。

アンケートの回答は各質問の回答総数を基数として百分率(%)で示していますが、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第2章 鈴鹿市のスポーツの現状

1 市民のスポーツ活動の現状

(1) スポーツの実施率

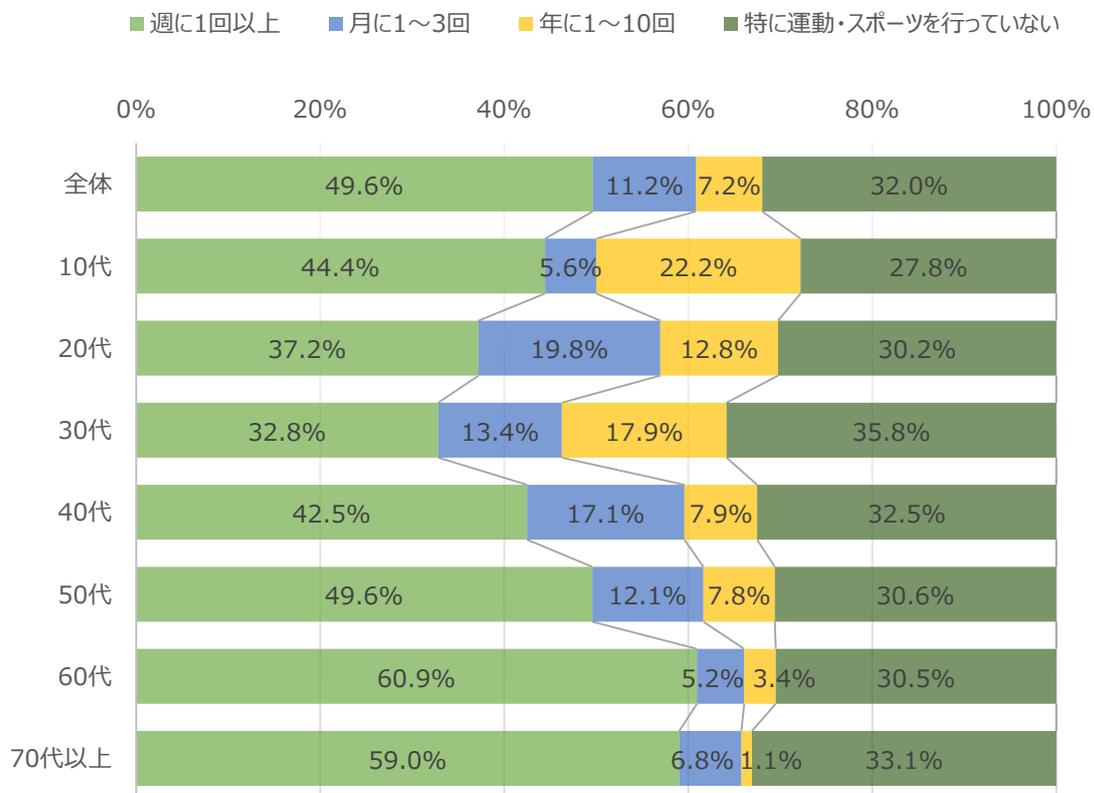
「鈴鹿市の運動・スポーツに関するアンケート」【2018（平成30）年6月調査】では、本市の18歳以上の週1回以上のスポーツ実施率[※]は、49.6%となっています。一方、三重県「みえ県民意識調査」【2018（平成30）年9月調査】では53.4%、スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」【2019（平成31）年1月調査】では55.1%となっています。

このように本市の18歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率[※]は、国や県と比べ下回っている状況にあります。

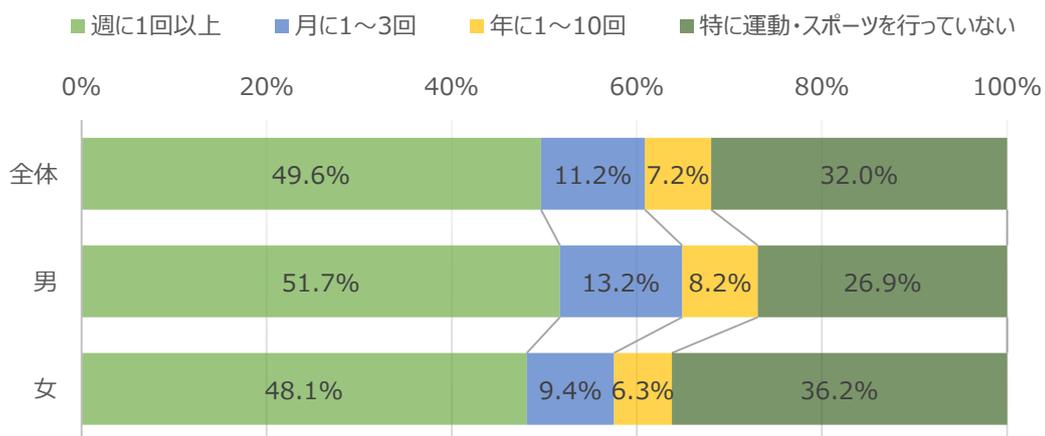
この週1回以上のスポーツ実施率[※]を年代別にみると、年代が高くなるにつれて、高い実施率となっています。最も高い年代は60代で、実施率は60.9%となっています。一方、最も実施率が低いのが30代で、最も高い60代とくらべると、28.1ポイント下回っています。また、男女別のスポーツ実施率[※]で比較すると、女性はスポーツを行っていない割合が高くなっています。

スポーツを行っていない人の理由としては、「仕事などで忙しく時間が無い（25.2%）」と答えた人の割合が最も高く、次いで、「健康上の理由（12.4%）」、「特に理由はない（11.5%）」、「始めるきっかけがない（11.2%）」となっています。そのほか、「育児で時間がとれない」、「妊娠、出産、入院があったため」という理由がありました。

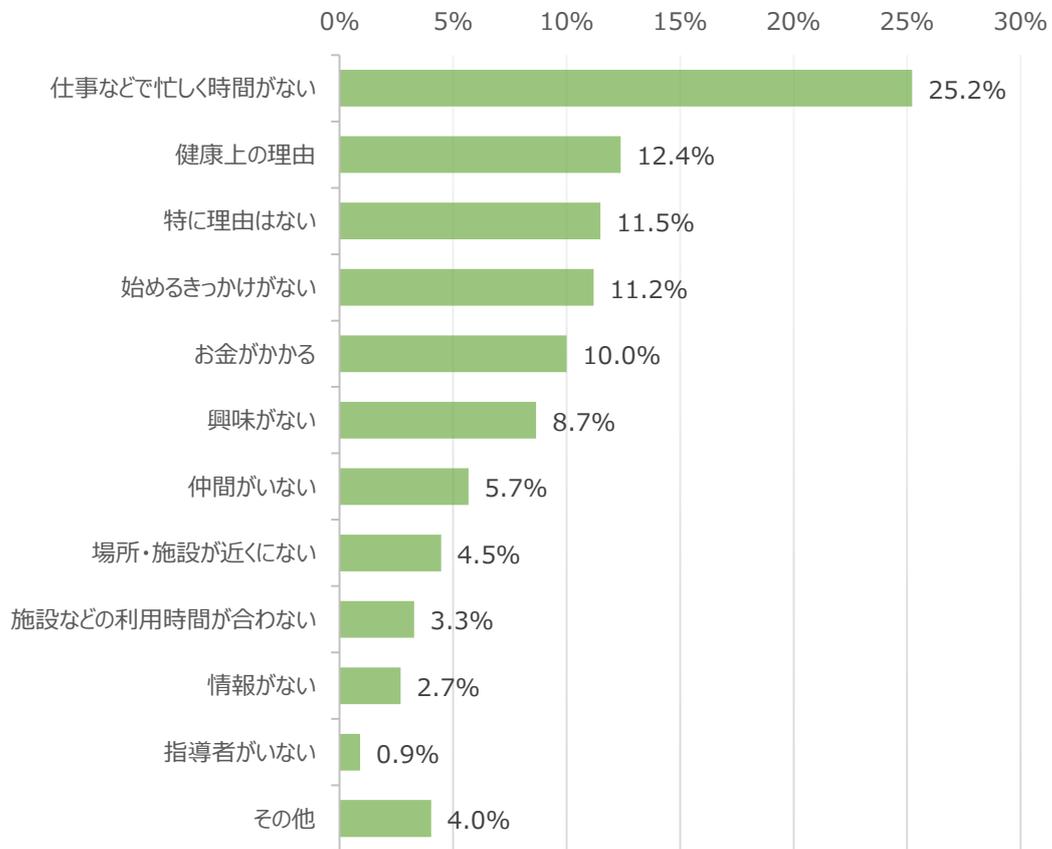
<図：年代別のスポーツ実施率※>



<図：男女別のスポーツ実施率※>



＜図：特に運動・スポーツを行っていない人の理由＞

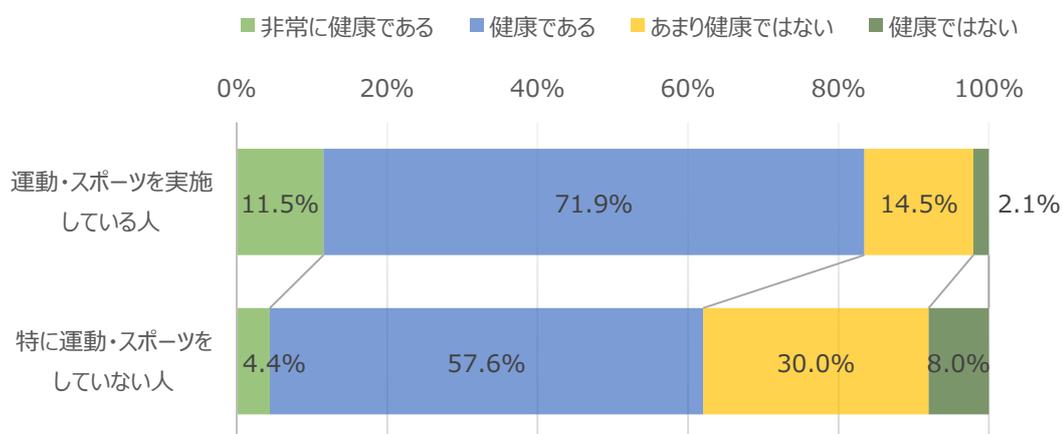


「その他」と答えた人の、主な回答は、「育児で時間がとれない」、「休日は、のんびり過ごしたい」、「仕事が運動」、「妊娠、出産、入院があったため」でした。

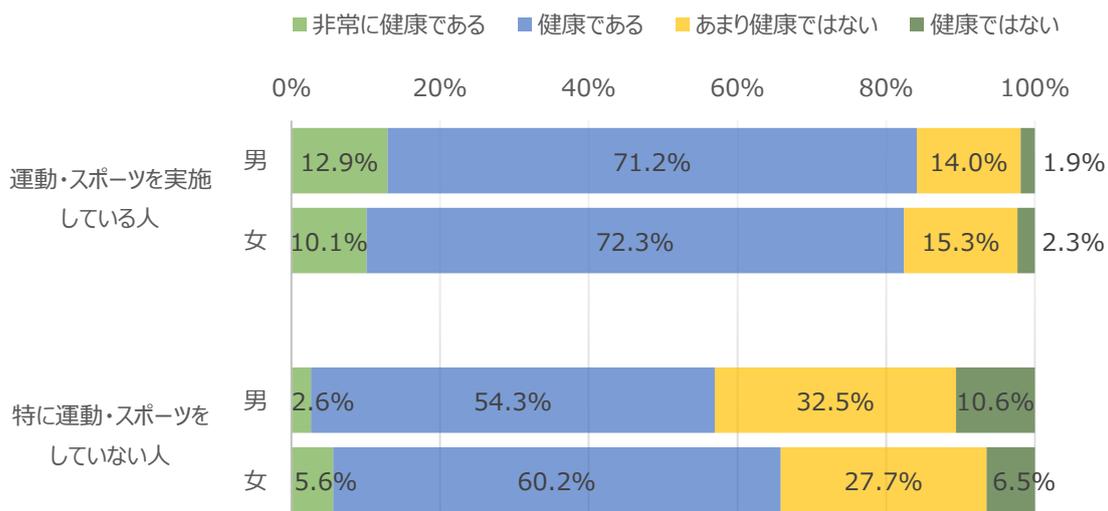
(2) 運動・スポーツの実施状況と健康状態との関係

「現在の健康状態」と「運動・スポーツの実施状況」との関係を見ると、運動・スポーツを実施している人は、していない人に比べ「非常に健康である」や「健康である」と答えた人の割合が高く、良好な健康状態にあると感じています。

<図：現在の健康状態（運動・スポーツの実施頻度別・男女計）>



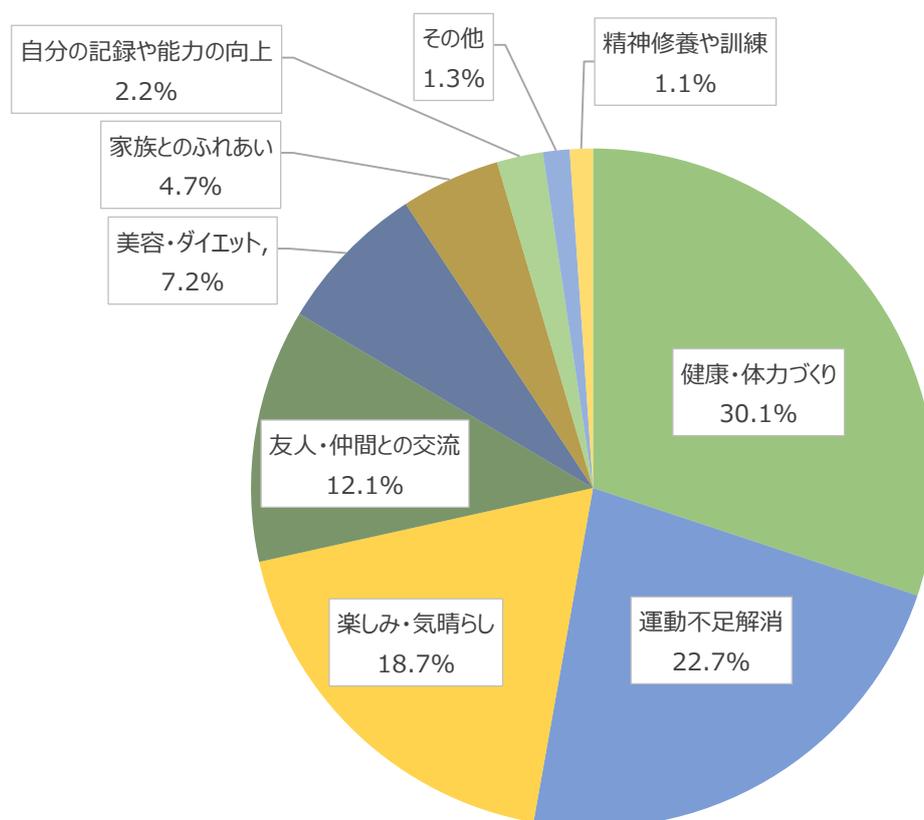
<図：現在の健康状態（運動・スポーツの実施頻度別・男女別）>



(3) 運動・スポーツを実施する目的

運動・スポーツを実施している人の主な実施の目的は、「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「運動不足解消」となっており、健康への意識の高さが見られます。

<図：運動・スポーツを実施する目的>

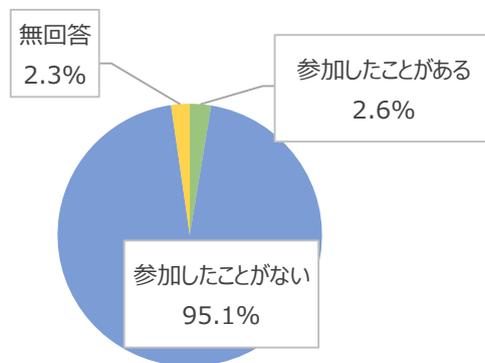


(4) スポーツに関わるボランティア活動について

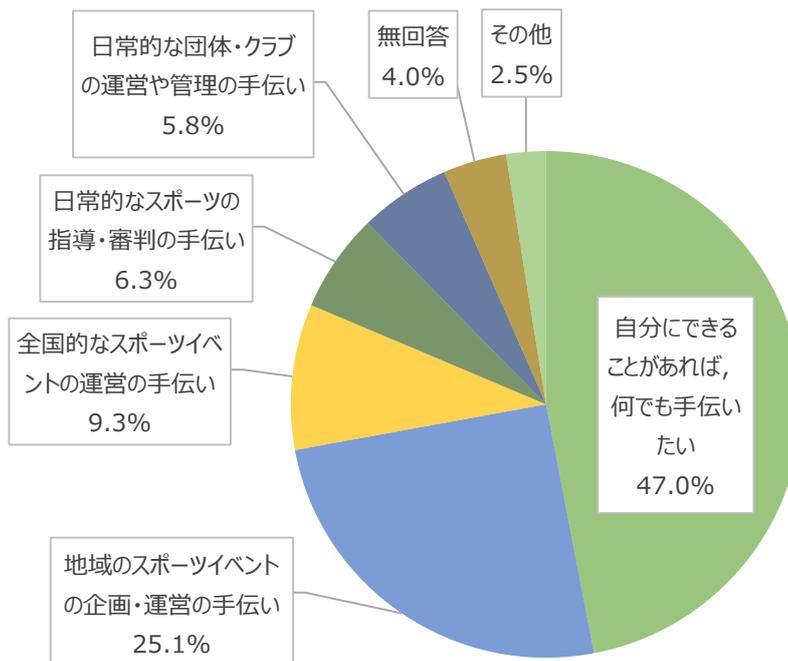
過去1年間で運動・スポーツに関わるボランティア活動に参加したことがある人は、全体の2.6%となっています。

また、参加したことがない人のうち、機会があれば参加したいと考えている人が関わりたいと思うボランティア活動は「自分にできることがあれば、何でも手伝いたい」と答えた人の割合が最も高く、次いで「地域のスポーツイベントの企画・運営の手伝い」となっています。

<図：過去1年間のボランティア活動参加率>



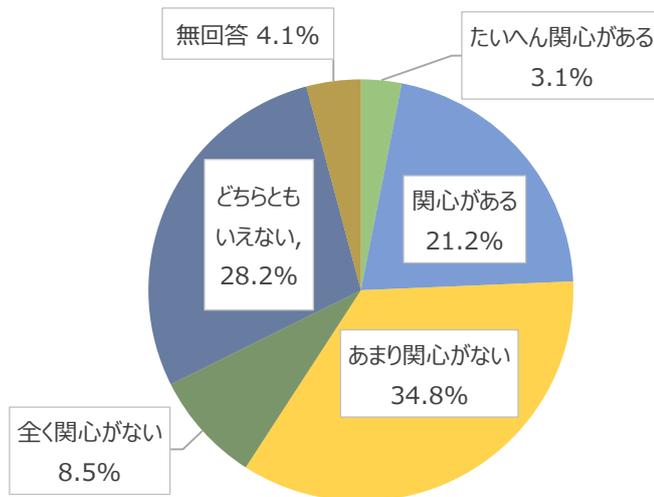
<図：関わりたいと思うボランティア活動>



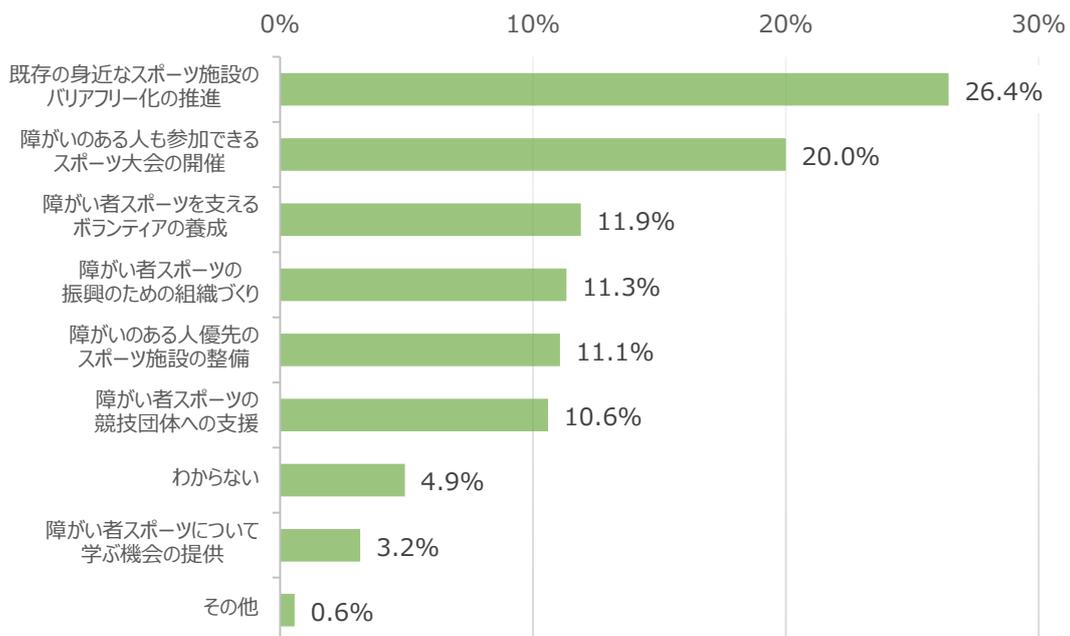
(5) 障がい者スポーツについて

障がい者スポーツに関心があると答えた人の割合は、全体の24.3%となっています。障がい者スポーツの普及・振興に重要なことは、「既存の身近なスポーツ施設のバリアフリー化の推進」と答えた人の割合が最も高く、次いで「障がいのある人も参加できるスポーツ大会の開催」となっています。

<図：障がい者スポーツの関心の有無>



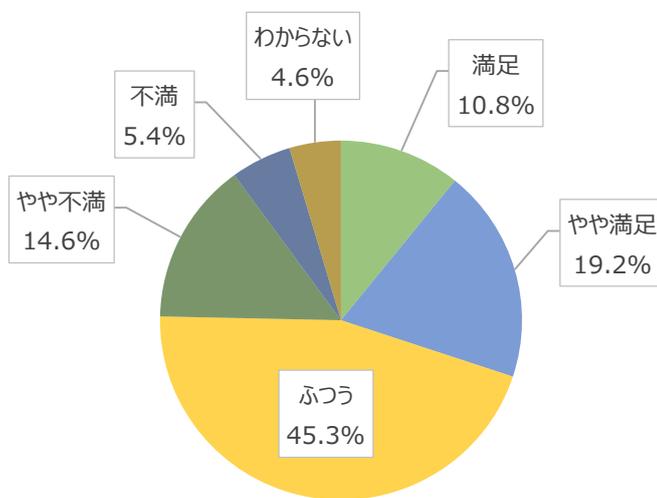
<図：障がい者スポーツに対し重要と考える施策>



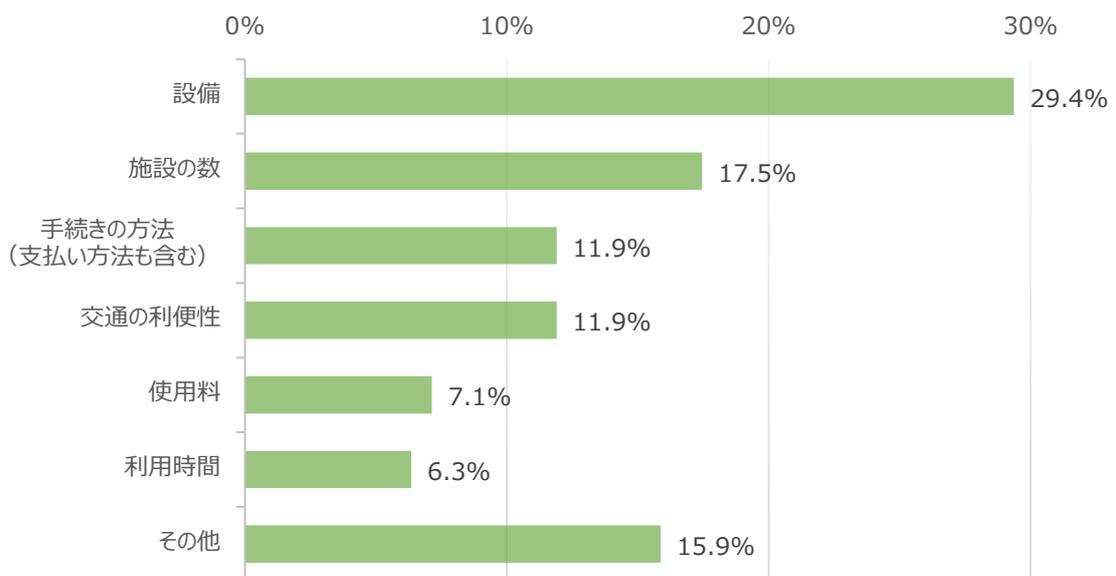
(6) 運動・スポーツ施設について

過去1年間で本市の運動・スポーツ施設を利用した人のうち、「やや不満」、「不満」と答えた人の割合は、全体の20.0%となっています。その中で、不満な点としては、「設備」と答えた人の割合が最も高く、次いで「施設の数」、「手続きの方法」、「交通の利便性」となっています。

<図：運動・スポーツ施設の利用満足度>



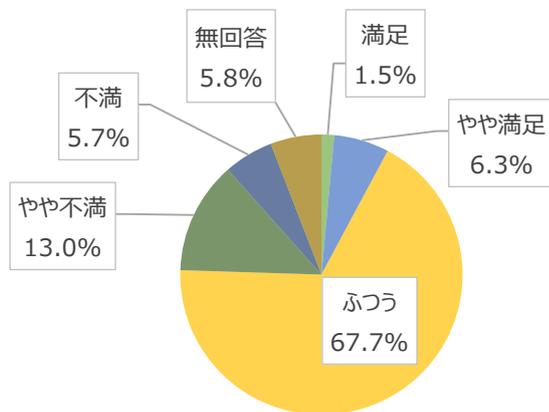
<図：運動・スポーツ施設の不満な点>



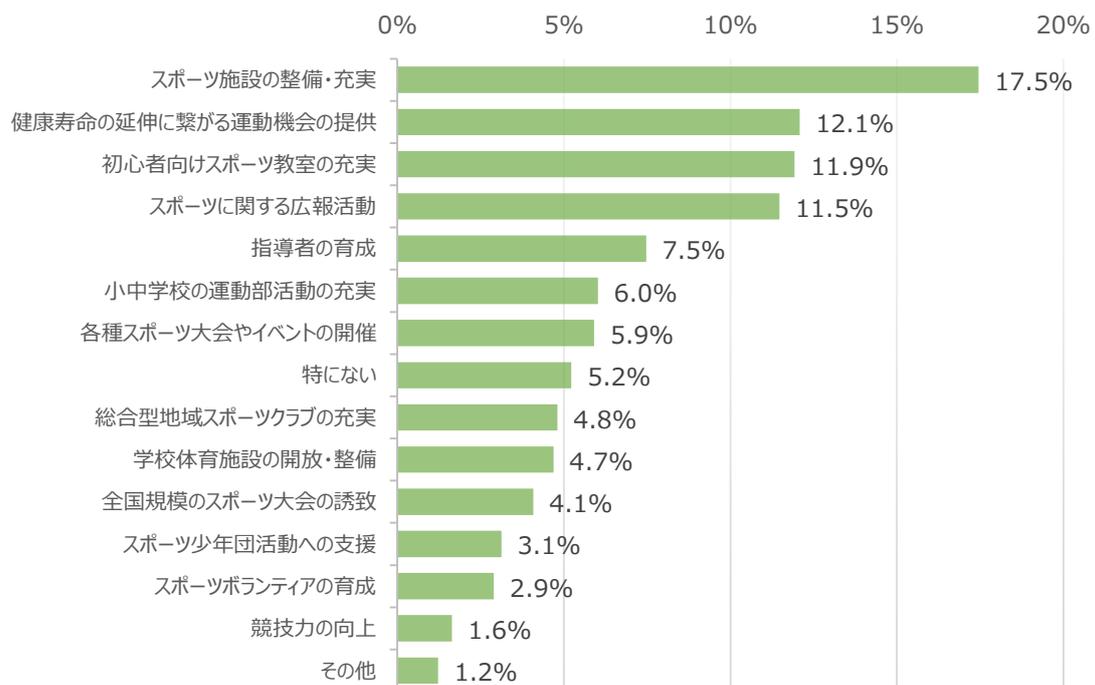
(7) スポーツ振興施策について

本市のスポーツ振興施策について、肯定的（満足，やや満足）にとらえている人の割合は7.8%となっています。これは，否定的（不満，やや不満）にとらえている人の割合18.7%を，10.9ポイント下回る結果となりました。また，今後取り組むべきスポーツ振興施策については「スポーツ施設の整備・充実」と答えた人の割合が最も多く，次いで「健康寿命の延伸に繋がる運動機会の提供」，「初心者向けスポーツ教室の充実」となっています。

<図：スポーツ振興施策の満足度，取り組むべき施策>



<図：取り組むべきスポーツ振興施策>

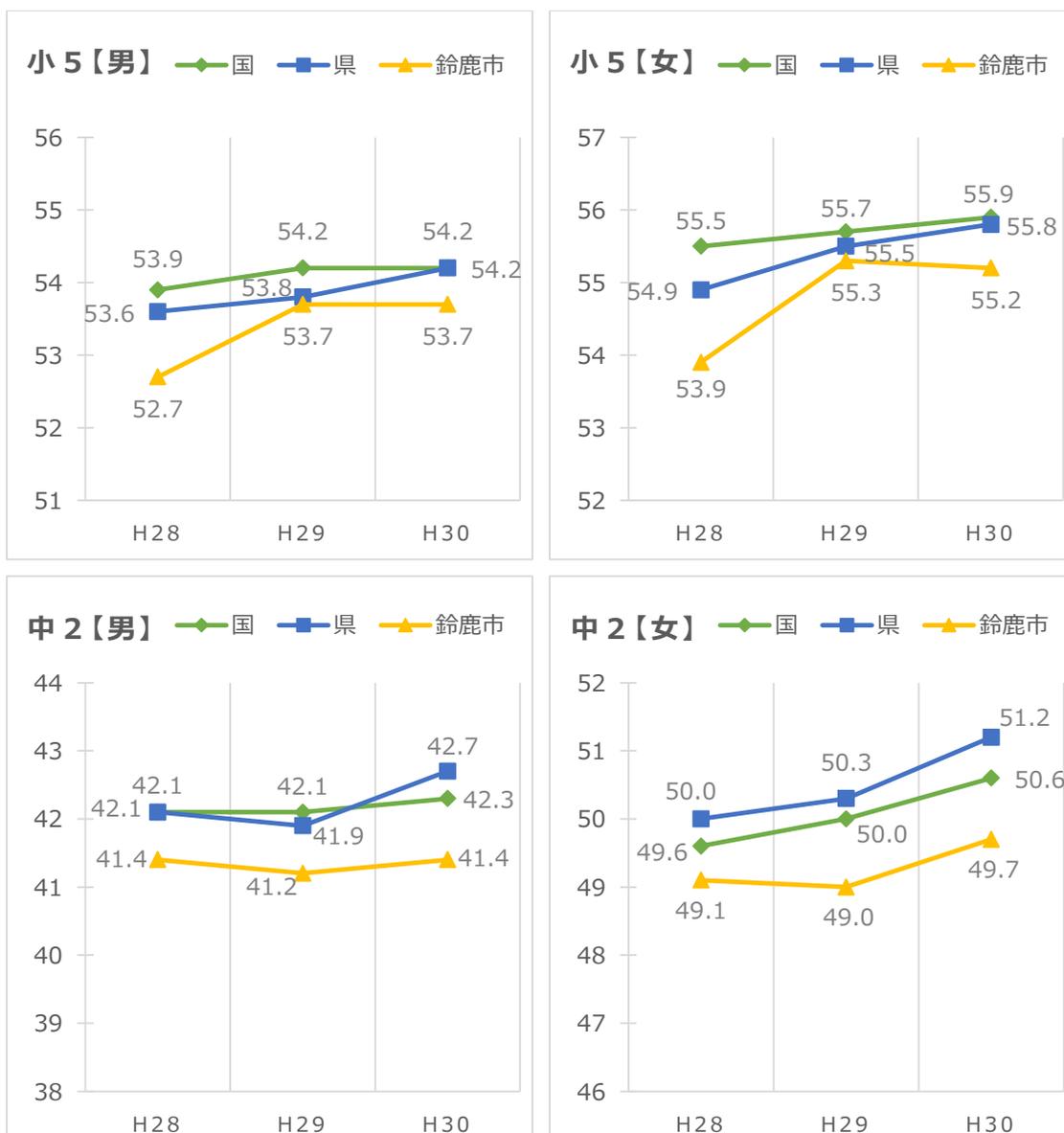


2 子どもの体力，スポーツに対する意識

(1) 子どもの体力・運動能力

「全国体力・運動能力，運動習慣等調査※」にて，過去3年間の小学5年生及び中学2年生の体力測定結果をみると，各調査種目の「体力合計点」は全国平均，県平均を下回っています。小学5年生は，2017（平成29）年度に全国平均，県平均に近づきましたが，2018（平成30）年度に再び差が開きました。中学2年生では差が開いたまま推移しています。

＜図：小学5年生，中学2年生 男女別 体力合計点 国県市 3年＞



(2) 子どものスポーツに対する意識

「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※」によると、「運動が好きですか」という質問に対して、肯定的に答えた子どもの割合は、小学5年生では年々下降しています。特に男子では全国平均、県平均に比べ下降の度合いが大きくなっています。中学2年生では、2018（平成30）年度において、差が縮まってきています。

<図：小学5年生，中学2年生 男女別 運動の意識 国県市 3年>

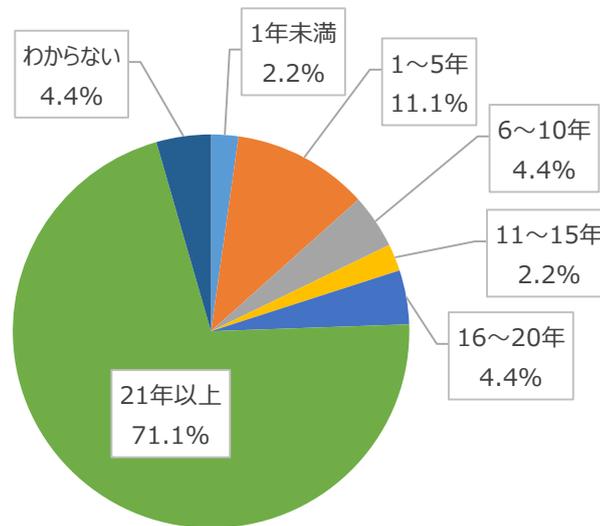


3 スポーツ団体等の活動の現状

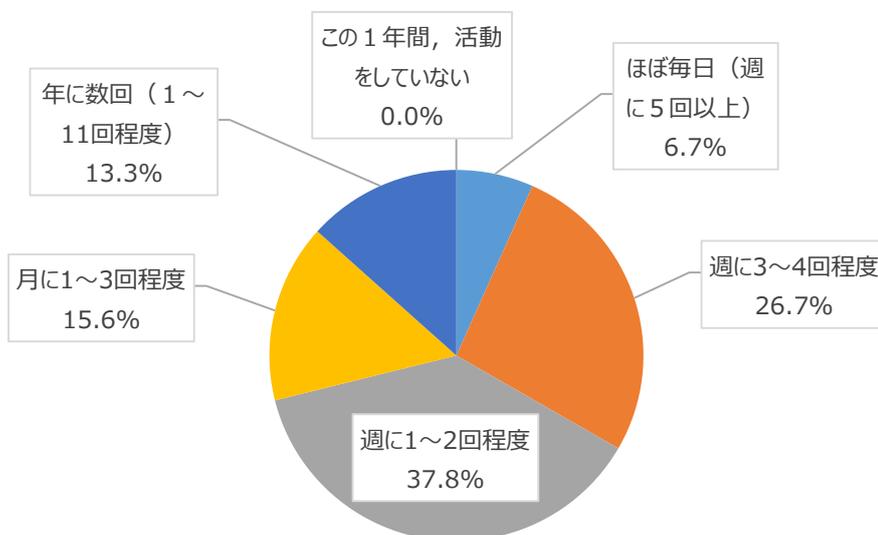
(1) スポーツ団体の現状と課題

「スポーツ団体の活動等に関するアンケート」【2019（平成31）年1月調査】によれば、活動歴の長い団体が圧倒的に多くなっています。また、活動頻度については、週に1回以上活動している団体の割合が71.2%となっています。

<図：団体の活動歴>



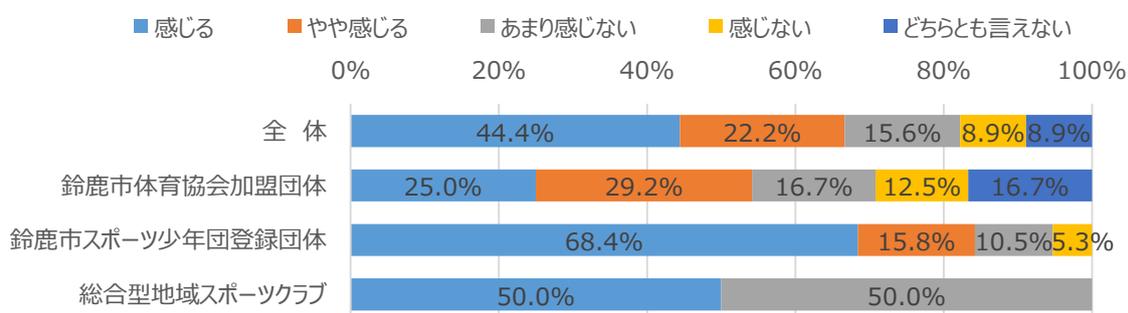
<図：団体の活動頻度>



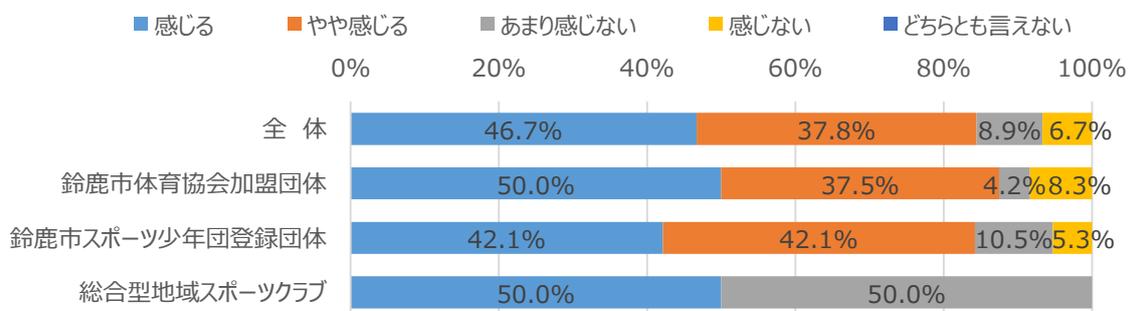
団体の運営に関しては、団体の登録者数・会員数が減少していると最も感じているのが、鈴鹿市スポーツ少年団です。少子化の傾向から、若年層を主に対象としているこの団体で影響が出ていると考えられます。

また、運営を行う者の高齢化・人材不足を感じている団体が非常に多くなっており、人材不足などの解消が団体活動を維持していく上での課題といえます。

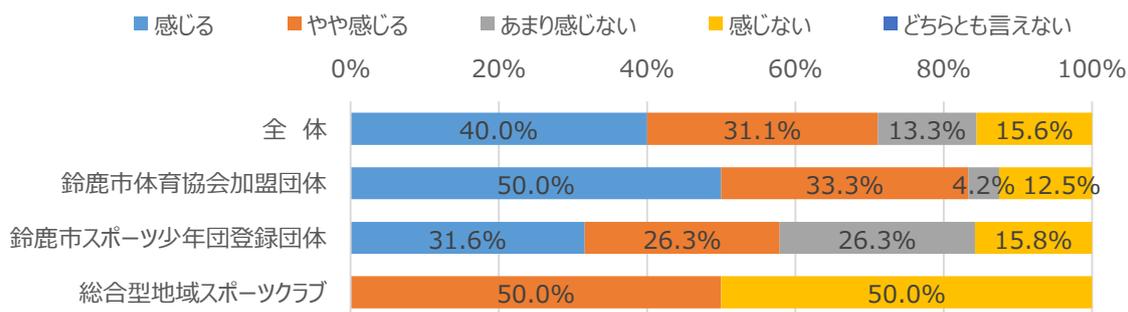
<図：団体の登録者数・会員数が減少していると感じるか（団体の種類別）>



<図：団体運営を行う人材が少ないと感じるか（団体の種類別）>



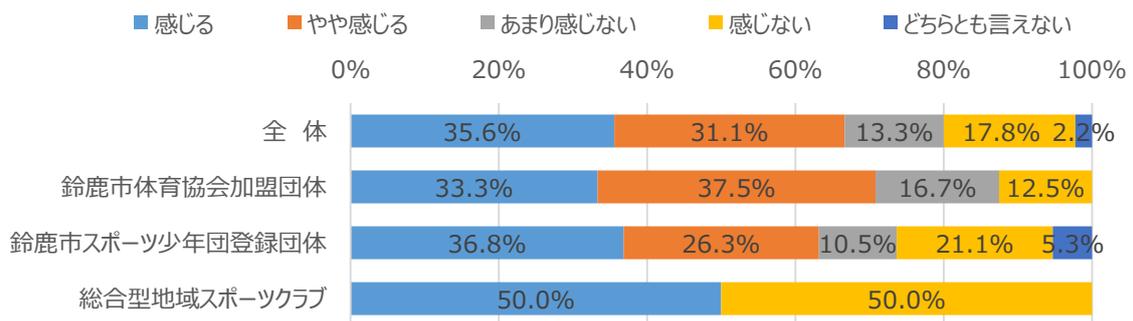
<図：団体運営を行う者の高齢化を感じるか（団体の種類別）>



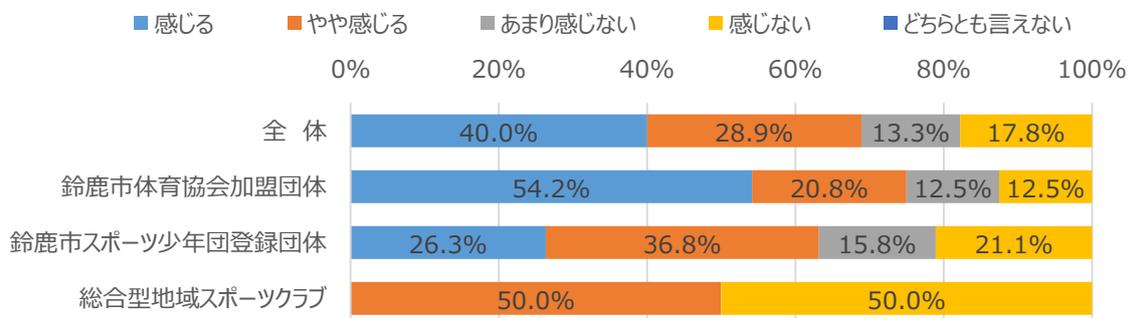
(2) スポーツ指導員の現状

スポーツ団体において、所属している指導者についても、運営を行う者と同様に高齢化・人材不足を感じており、指導者の育成が思うように進んでいない状況です。

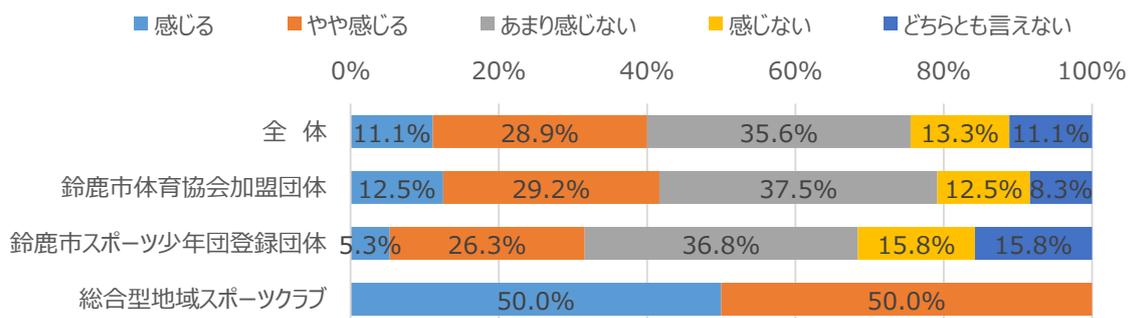
<図：指導者が少ないと感じるか（団体の種類別）>



<図：指導者の高齢化を感じるか（団体の種類別）>



<図：指導者の育成，派遣体制は整っていると感じるか（団体の種類別）>



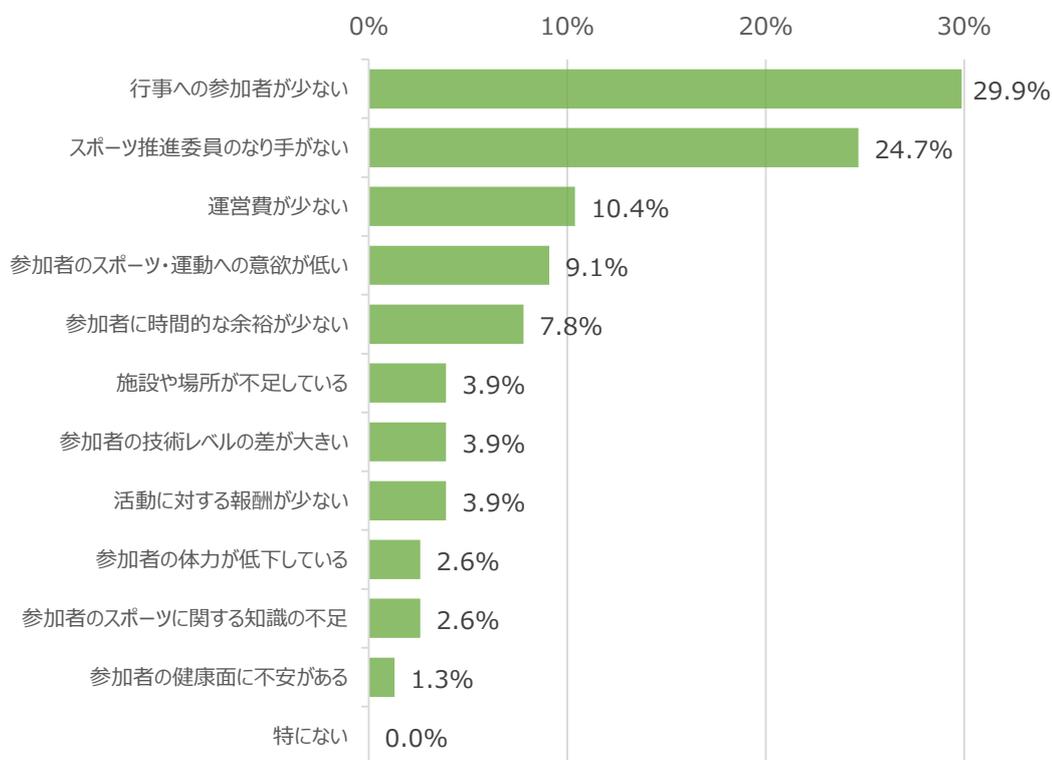
(3) スポーツ推進委員の現状

スポーツ推進委員は、市民のスポーツの推進に関し、スポーツの実技の指導やスポーツ活動の促進のための組織の育成など、スポーツに関する様々な指導・助言、地域住民と行政を結ぶコーディネーターとしての役割を担う指導者として、本市がスポーツ基本法^{*}に基づき委嘱しており、2019（令和元）年度においては、63名の方に地域で活躍していただいています。

「スポーツ推進委員の活動等に関するアンケート」【2019（平成31）年1月調査】によれば、スポーツ推進委員として活動するにあたっての悩みや課題は、「行事への参加者が少ない」と答えた委員の割合が最も高くなっており、地域でのスポーツ行事では参加者が固定されているなどが現状のようです。

また、「スポーツ推進委員のなり手がいない」と答えた委員の割合も高く、ここでも人員不足の面が見てとれます。

＜図：スポーツ推進委員として活動しているの悩みや課題＞



(4) 鈴鹿市体育協会の現状

鈴鹿市体育協会は、1946（昭和21）年の設立以来、地域に根付くスポーツ団体としてスポーツ振興を図っています。2007（平成19）年には特定非営利活動法人として認証を受け、現在では32の競技団体をはじめ、学校等の関係団体を含め59の団体が加盟し、登録選手は2万人を超えています。

鈴鹿市体育協会では、スポーツを通じて健全な精神の涵養を図り、明るく健康的な社会の建設に貢献していくために、広く一般市民を対象とした、健康づくりや競技力の向上及びスポーツを普及発展させる事業など、本市のスポーツ振興の一翼を担っています。

以下は、鈴鹿市体育協会の現在の事業活動や、今後の方向性などについてのヒアリング結果です。

① 主な事業活動

<健康づくり事業>

スポーツを通じた健康づくりに寄与する事業のひとつである各種スポーツ教室の開催（21教室）においては、健康志向の教室、例えばヨガやウォーキングといった教室で受講者が増えてきている状況です。

今後もニーズの高い種目などを取り入れ、鈴鹿いきいきスポーツ都市宣言に掲げる「市民一人ひとりのスポーツ」ができる環境をめざして、健康づくり事業に取り組んでいくとのことです。

<ジュニア育成強化事業>

ジュニアを対象とした事業としては、指導者等への研修会を実施したり、加盟団体が行っているジュニア向けの教室等の支援（20団体）や、鈴鹿市スポーツ少年団の活動を支援しています。

また、ジュニア選手の育成・強化の推進に寄与するために、ジュニア年代において顕著な成績を収めた者に対し、その栄誉をたたえ表彰を行っています。

＜スポーツ医・科学事業＞

スポーツ医・科学の面から、適切な体カトレーニングの取り組み方やスポーツ障害の予防・対処法について、ポスターやチラシを作成し、市内の小中学校に配布しています。

また、救命救急に関する講習会の開催や、スポーツ医・科学講演会を実施するなどの啓発活動を行っています。

＜競技力の強化・向上事業＞

競技力向上をめざした事業としては、中学生を対象に各中学校を巡回して行っている競技力向上トレーニングや、加盟団体が行っている強化事業の支援（12団体）などを行っており、今後も競技力レベルアップを図る施策を行っていく考えです。

文中の団体数、教室数は、2018（平成30）年度末の実績によるものです。

② 今後の方向性など

本市のスポーツを推進していくためには、行政・鈴鹿市体育協会・スポーツ関係団体がそれぞれの役割を明確にし、緊密な連携のもとに活動していくことが重要であると考えています。

これまで進めてきた公益的事業の充実・拡大、スポーツに関する情報提供に加え、三重とこわか国体・三重とこわか大会については、本市でも多くの競技が開催されることから、行政と連携を図り、大会のPRを行いたいと考えています。そして、大会終了後も市民がスポーツに対する興味・関心を維持できるようスポーツ推進の各種事業に取り組んでいく必要があると考えています。

また、本市のスポーツ施設については、老朽化をはじめ機能面で多くの課題を抱えていると感じており、環境整備などの要望を行っていく必要があると考えています。

第3章 推進施策の取組

1 計画のめざす姿

スポーツを観て，参加して，楽しむまち鈴鹿

「鈴鹿市総合計画2023」では，スポーツ団体及び地域などと連携を深め，大規模なスポーツイベントの開催を契機に，市民がスポーツに気軽に参加し，親しめる環境の支援・整備を進めるとともに，スポーツをしたり，観たり，支える機会を拡充し，健康で生きがいのある生活を提供することを行政の使命としています。

このことから，市民が生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るために，スポーツを知り，学ぶことからスポーツに対する関心を高め，スポーツを楽しむことができる状態をめざし，「スポーツを観て，参加して，楽しむまち鈴鹿」を本計画のめざす姿とします。

2 基本目標

スポーツを通じた豊かさの醸成

本市では，生涯にわたりスポーツを愛し，スポーツを通して健康な心と体をつくとともに，友情と思いやりの輪を広げ，「市民一人ひとつのスポーツ」をめざして，2002（平成14）年4月に「鈴鹿いきいき スポーツ都市」を宣言しています。

このスポーツ都市宣言の理念のもと，計画のめざす姿を実現するため，取り組むべき基本目標を「スポーツを通じた豊かさの醸成」とし，市民が生涯にわたって楽しめるスポーツを提供します。

3 推進施策

推進施策は、計画のめざす姿の実現に向けて、掲げられた基本目標をもとに、本市が行う取組の柱となるものです。「鈴鹿市の運動・スポーツに関するアンケート」や「スポーツ団体、スポーツ推進委員の活動等に関するアンケート」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※」などの結果と2021（令和3）年の三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催など本市のスポーツを取り巻く状況から、8本の推進施策を設定しました。

<推進施策の体系>

推 進 施 策	取組内容（取組の方向性）
(1) ライフステージに応じたスポーツによる健康づくり	① スポーツ教室，高齢者スポーツクラブの充実 ② ビジネスパーソン世代※や女性へのスポーツ参加の促進 ③ 市民一人ひとつのスポーツ推進 ④ 健康づくりの推進
(2) 地域住民スポーツ活動の推進	① 地域のスポーツ行事などの促進 ② スポーツ推進委員との連携の強化 ③ スポーツ推進委員の育成 ④ 地域のスポーツクラブの活動促進
(3) 障がい者スポーツの推進	① 障がい者スポーツ普及事業の開催 ② スポーツ施設のバリアフリー化の推進 ③ ボランティア活動の推進
(4) 子どもの体力・運動能力の向上	① 運動の日常化の取組 ② 体力向上に向けた授業の改善 ③ 適正な運動部活動の実施 ④ トップアスリートによる訪問授業の実施 ⑤ ジュニアスポーツの推進 ⑥ わくわく体験ニュースポーツの実施 ⑦ スポーツ少年団活動の活性化

推 進 施 策	取組内容（取組の方向性）
(5) 競技力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツ活動への支援や情報発信 ② 競技力の強化・向上 ③ スポーツ医・科学との連携 ④ スポーツ指導者バンク制度の活用 ⑤ 美し国三重市町対抗駅伝※本市代表チームの支援
(6) スポーツを通じた地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ① 鈴鹿シティマラソンの開催 ② 地域にねざしたクラブチームの支援 ③ ホストタウン※の推進 ④ スポーツを「観る」機会の創出, 「支える」組織の構築
(7) スポーツ施設の整備と利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ① 快適で安全・安心なスポーツ施設の環境整備 ② スポーツ施設の管理運営 ③ スポーツ施設の改修 ④ スポーツ施設に関する情報の発信 ⑤ 学校体育施設の開放
(8) 大規模大会を契機としたスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ① 三重とこわか国体・三重とこわか大会の情報発信 ② 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催 ③ 大規模大会が残すレガシー※の継承

<到達目標一覧>

推進施策	到達目標	現 状 値	目 標 値
(1) ライフステージ に応じたスポーツ による健康づくり	I 週1回以上のスポーツ実施率※	49.6% (2018年度)	55.0% (2023年度)
	II スポーツ教室への年間参加者数	18,002人 (2018年度)	19,000人 (2023年度)
	III 各種スポーツ行事などへの年間参加者数	9,996人 (2018年度)	10,500人 (2023年度)
(2) 地域住民スポーツ活動の推進	I 各地域の住民スポーツ行事などへの年間参加者数	20,953人 (2018年度)	22,100人 (2023年度)
(3) 障がい者スポーツの推進	I 障がい者スポーツの普及に関する体験会などへの年間参加者数	— (2018年度)	300人 (2023年度)
(4) 子どもの体力・ 運動能力の向上	I 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※」の体力測定を全学年・全種目で実施した学校の割合	75.0% (2018年度)	90.0% (2023年度)
	II ジュニアスポーツ大会への年間参加者数	2,793人 (2018年度)	2,920人 (2023年度)
	III わくわく体験ニュースポーツへの年間参加者数	1,851人 (2018年度)	1,930人 (2023年度)
(5) 競技力の向上	I 全国大会等出場選手 激励金・顕彰金の年間 交付人数	526人 (2018年度)	550人 (2023年度)
(6) スポーツを通じ た地域の活性化	I スポーツ観戦率	32.6% (2018年度)	40.0% (2023年度)
	II スポーツに関するボ ランティア実施率	2.6% (2018年度)	10.0% (2023年度)
(7) スポーツ施設の 整備と利用促進	I スポーツ施設及び学 校体育施設開放事業 の年間利用者数	869,454人 (2018年度)	950,000人 (2023年度)

4 推進施策の展開

(1) ライフステージに応じたスポーツによる健康づくり

【現状と課題】

市民が、生涯にわたり健康，体力，年齢，技術，目的などに応じてスポーツに親しむことができるよう，世代やニーズに合った様々なスポーツ活動の機会や場を充実し，スポーツ活動を推進する必要があります。

特に，高齢化が進展する中で，中高年層を中心とした市民の健康の保持・増進は，医療費などの社会保障費の軽減にもつながると考えられることから，重要な課題であるといえます。

また，市民アンケートのスポーツ実施率[※]の結果から，習慣的にスポーツを実施する割合が低い20代から40代のビジネスパーソン世代[※]に向けて，忙しい生活の中にスポーツを取り入れることができる施策や，スポーツを行っていない割合の高い女性に向けた施策を推進していく必要があります。

【取組概要】

全ての市民が年齢，技術，目的などに応じて，スポーツに親しみ，楽しめる機会を提供し，スポーツ活動を推進します。

また，スポーツを通じて，ライフステージに応じた健康づくりを進め，誰もが健康に暮らすことのできる社会の実現をめざします。

取組内容（取組の方向性）

① スポーツ教室，高齢者スポーツクラブの充実

- 市民の健康と体力づくりのため，幅広い年齢層のニーズに応じたスポーツ教室や講座を開催し，内容を充実します。
- 高齢者が，気軽にスポーツを楽しむことができる場を提供し，健康の維持・増進を含め，様々な人々との交流や地域コミュニケーションの機会を得られるよう，高齢者スポーツクラブの充実を図ります。

取組内容（取組の方向性）	
② ビジネスパーソン世代 [※] や女性へのスポーツ参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ビジネスパーソン世代[※]や女性が、それぞれのライフスタイルに合わせてスポーツに取り組めるよう、仕事や育児・家事などの合間にできるウォーキングや体操などのスポーツを研究するとともに、広報すずかやホームページなどを活用し、スポーツに対する意識の向上を図ります。
③ 市民一人ひとつのスポーツ推進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 誰もが取り組めるスポーツの普及を促進する手段として、鈴鹿市スポーツ推進委員協議会[※]が中心となって作成したウォーキングマップ[※]を活用し、全市的な取組を推進します。 ➤ 鈴鹿市スポーツ推進委員協議会[※]の活動を中心として、ニュースポーツ[※]の普及事業を実施します。
④ 健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市主催のスポーツ事業やスポーツ教室などへの参加を促し、スポーツを通じた生活習慣の見直しや健康寿命の延伸などを、鈴鹿市健康づくり計画との整合を図りながら進めます。 ➤ 健康づくりの一層の推進を図るため、すずか健康マイレージ事業[※]に参加します。

<到達目標 (1)- I >

目標名	週1回以上のスポーツ実施率 [※]		
設定理由	市民のスポーツ実施率が増加することは、市民がスポーツに関心を持ち、スポーツに親しむことにつながるため。		
現状値 (2018年度)	49.6%	目標値 (2023年度)	55.0%

<到達目標 (1)-Ⅱ>

目標名	スポーツ教室への年間参加者数		
設定理由	スポーツ教室への参加者数が増加することは、幅広い年齢層のニーズに応じた市民の健康と体力づくりにつながるため。		
現状値 (2018年度)	18,002人	目標値 (2023年度)	19,000人

<到達目標 (1)-Ⅲ>

目標名	各種スポーツ行事などへの年間参加者数		
設定理由	各種スポーツ行事などへの参加者数が増加することは、市民がスポーツ活動に親しみながら健康的な生活を送っていくことにつながるため。		
現状値 (2018年度)	9,996人	目標値 (2023年度)	10,500人



(2) 地域住民スポーツ活動の推進

【現状と課題】

少子高齢化，都市化などの進展により，人間関係が希薄になりつつある社会状況の中，本市の各地域においても，地域によっては，地域のスポーツ行事の参加者が減少してきたところもでてきており，スポーツ推進委員の認知度も低い状況にあります。市民がもっと気軽にスポーツに親しみ，地域のスポーツ活動を活性化させていくには，身近でスポーツに触れられるような環境を整えていく必要があります。

【取組概要】

鈴鹿市スポーツ推進委員協議会[※]と連携を図るとともに，地域づくり協議会[※]が行う健康づくりと地域福祉の増進に関する事業のひとつとして，地域住民スポーツを推進します。

地域のスポーツ活動を通じて，地域全体のまとまりや連帯感，人と人とのつながりづくりなど，スポーツを通じた豊かさの醸成を図ります。

取組内容（取組の方向性）
① 地域のスポーツ行事などの促進 ➤ 地域のスポーツ行事や体育祭のほか，いきいきスポーツデー [※] として開催される運動会やニュースポーツ [※] 競技の取組を支援します。
② スポーツ推進委員との連携の強化 ➤ 地域のスポーツ推進委員と連携し，地域のスポーツ教室の開催など，地域のスポーツ振興の活性化を図ります。
③ スポーツ推進委員の育成 ➤ 地域と行政をつなぐコーディネーターとして重要な役割を果たすスポーツ推進委員を対象とした研修会の開催を通じて，スポーツ推進委員のスキルアップに取り組み，地域に還元できる体制を強化します。
④ 地域のスポーツクラブの活動促進 ➤ 子どもから高齢者まで，世代に応じた地域でのスポーツ活動を推進するため，総合型地域スポーツクラブ [※] やスポーツ少年団など，地域のスポーツクラブの活動を支援します。

<到達目標 (2)-I >

<p>目標名</p>	<p>各地域の住民スポーツ行事などへの年間参加者数</p>		
<p>設定理由</p>	<p>各地域において行われるスポーツ行事などへの参加者数が増加することは、スポーツを通じた住民間の連帯感を高めるなど、豊かさの醸成につながるため。</p>		
<p>現状値 (2018年度)</p>	<p>20,953人</p>	<p>目標値 (2023年度)</p>	<p>22,100人</p>



(3) 障がい者スポーツの推進

【現状と課題】

本市では、市民アンケートの結果、障がい者スポーツに興味があると答えた人の割合は、約25%と高い状況にあるとはいえません。

東京パラリンピック競技大会や三重とこわか大会に向け、全国的に障がい者スポーツへの関心が高まる状況は、障がいのある人がスポーツに親しむことができる好機であるとともに、障がい者スポーツへの理解にもつながります。

今後は、障がい者スポーツへの参加機会の提供や支える人材の確保、また障がいのある人が安心してスポーツに参加することができるような環境を整えていく必要があります。

【取組概要】

障がいのある人が身近な地域で日常的にスポーツに親しむ環境づくりに取り組むとともに、誰もがスポーツを楽しむことができる社会を実現するため、障がい者スポーツの普及促進や環境整備など、障がい者スポーツ施策の推進に努めるとともに、スポーツを通じて障がいのある人の自立と社会参加を促進します。

取組内容（取組の方向性）
① 障がい者スポーツ普及事業の開催 ➤ 鈴鹿市身体障害者福祉協会や鈴鹿市スポーツ推進委員協議会*など、様々な団体と連携しながら、障がいのある人もない人も共に楽しみ、参加できる障がい者スポーツ普及事業を開催します。
② スポーツ施設のバリアフリー化の推進 ➤ 障がいのある人がスポーツに参加する機会や観戦できる機会を広げるため、スポーツ施設のバリアフリー環境の整備を図ります。

取組内容（取組の方向性）

③ ボランティア活動の推進

- ボランティア活動に興味のある人が参加しやすいよう、広報誌やホームページなどで、積極的に情報を発信します。
- 障がい者ふれあい運動会や、鈴鹿シティマラソンなどのイベントを通じ、ボランティアとの交流を促進します。

<到達目標 (3)-I>

目標名	障がい者スポーツの普及に関する体験会などへの年間参加者数		
設定理由	障がいのある人もない人も共に楽しみ、参加できる障がい者スポーツを普及することは、誰もがスポーツを楽しむことができる社会の実現につながるため。		
現状値 (2018年度)	—	目標値 (2023年度)	300人



(4) 子どもの体力・運動能力の向上

【現状と課題】

子どもを取り巻く生活環境が急激に変化する中、日常生活はもとより、遊びや地域の活動の中で体を動かす機会が減少し、子どもの体力・運動能力の低下が社会的に問題となっています。

また、近年、積極的にスポーツをする子どもと、そうでない子どもの二極化が進んでいる状況も認められます。

このような状況に対応するため、家庭や地域と連携し、子どもたちがスポーツや運動に親しむ機会を拡充する必要があります。また、学校においても運動習慣の定着に向けた工夫が求められています。

【取組概要】

子どもたちが運動に関心を持ち、日常的に運動やスポーツに親しみ、体を動かす習慣を身につけるための取組を推進します。

家庭や地域で運動機会の拡充をめざすとともに、学校では、子どもたちの運動経験、興味・関心などの多様な現状を踏まえ、運動の楽しさや喜びを味わえる授業を工夫し、運動の課題を自ら見つけて解決しようとする能力の育成をめざした取組を行います。

取組内容（取組の方向性）

① 運動の日常化の取組

- 鈴鹿市版幼児の体力向上実践プログラム「きらきらタイム[※]」の取組を推進します。
- 児童生徒が、始業前や休み時間などに運動に親しむため、小中学校において「1学校1運動」に取り組みます。
- 生活習慣チェックシートの実施、体力測定結果の周知、長期休業中の戸外遊びや運動等への参加の呼びかけなどをおして、体力づくりの重要性について啓発し、家庭における運動習慣の確立に向けて取り組みます。

取組内容（取組の方向性）

② 体力向上に向けた授業の改善

- 「全国体力・運動能力，運動習慣等調査※」の結果分析をもとに，学校全体で体力状況の課題解決に向けた年間計画を作成し，体育科・保健体育科などの授業改善に取り組みます。

③ 適正な運動部活動の実施

- 「鈴鹿市運動部活動指針※」に基づき，指導内容や方法についての工夫・改善など，運動部活動を適切に行います。
- 運動部活動の指導者を対象とした研修会などを通じて指導力の向上を図ります。

④ トップアスリートによる訪問授業の実施

- 将来の夢や希望を持てる子どもを育むため，トップアスリートや指導者などを学校に派遣し，スポーツの魅力や楽しさを伝えます。

⑤ ジュニアスポーツの推進

- 少年野球や少年サッカー，ジュニアバレーボールなどのジュニアスポーツ大会を開催します。

⑥ わくわく体験ニュースポーツの実施

- 鈴鹿市スポーツ推進委員協議会※の活動の一環として，小学生や地域住民を対象にファミリーバドミントンやテーブルなど，簡単に取り組めるニュースポーツ※を楽しむ出前授業を実施します。

⑦ スポーツ少年団活動の活性化

- 鈴鹿市スポーツ少年団事務局の鈴鹿市体育協会を通じて、スポーツ少年団活動の充実や活動状況の情報提供に努め，登録団の増加を図るとともに，スポーツ少年団の指導者やジュニアリーダーの養成を図ります。

<到達目標 (4)-I>

目標名	「全国体力・運動能力，運動習慣等調査 [※] 」の体力測定を全学年・全種目で実施した学校の割合		
設定理由	毎年一度，自分自身の体力・運動能力の状態を把握する機会を設けることは，生涯にわたり豊かなスポーツライフの基礎を培うことにつながるため。		
現状値 (2018年度)	75.0%	目標値 (2023年度)	90.0%

<到達目標 (4)-II>

目標名	ジュニアスポーツ大会への年間参加者数		
設定理由	ジュニアスポーツ大会への参加者数が増加することは，子どもたちがスポーツに関心を持ち，日常的に運動やスポーツに親しむことにつながるため。		
現状値 (2018年度)	2,793人	目標値 (2023年度)	2,920人

<到達目標 (4)-III>

目標名	わくわく体験ニュースポーツへの年間参加者数		
設定理由	わくわく体験ニュースポーツへの参加者数が増加することは，子どもたちがスポーツに関心を持ち，日常的に運動やスポーツに親しむことにつながるため。		
現状値 (2018年度)	1,851人	目標値 (2023年度)	1,930人

(5) 競技力の向上

【現状と課題】

競技スポーツは、多くの市民に夢や感動、そして勇気を与えることが可能です。特に本市出身の選手の活躍は、市民にスポーツへの関心や参加意欲を促すことにつながるため、本市では、全国大会以上に出場する選手や成績優秀者に対して激励金・顕彰金を交付しています。

競技スポーツのレベル向上やトップアスリートを本市から輩出していくには、指導者の資質向上が必要です。

また、スポーツ強豪校などにおいて取りざたされた鉄剤の過剰摂取による臓器障害の危険性の問題などの状況からも、専門的な知識を持つスタッフの配置が求められています。

【取組概要】

競技力の強化・向上や指導者の育成については、鈴鹿市体育協会に、その中心を担っていただいていることから、鈴鹿市体育協会と連携し、競技団体の活動を支援し、競技スポーツ人口の拡大を図ります。

スポーツ医・科学、メンタルトレーニングなど競技力向上に必要な知識や技能を持つ専門スタッフによる指導の充実を図ります。

指導者バンク制度など、現行のスポーツ指導者に関する制度を活用しながら、指導者が活躍できる環境を整備します。

取組内容（取組の方向性）

① スポーツ活動への支援や情報発信

- 国際大会や全国大会に出場する選手に対して、激励金を交付し、活動を支援します。
- 成績優秀者に対して、顕彰金を交付するほか、鈴鹿市体育協会と連携し、表彰を行います。
- 全国大会などに出場または優秀な成績を収めた選手などが表敬訪問された際には、その情報を積極的に発信します。

取組内容（取組の方向性）	
② 競技力の強化・向上	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 鈴鹿市体育協会を通じて、各競技団体などが行う事業に対し、助成します。 ➤ 指導者の資質向上を図るための研修会を実施します。
③ スポーツ医・科学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 鈴鹿市体育協会の医科学委員会のもと、体と栄養の関係や、適切な体力強化、スポーツ障害の予防などについて、正しい情報を提供するため、普及啓発を行います。 ➤ 競技力の向上を図るため、中学校の運動部を対象に、メンタル及びアスレティックトレーニングに関する講習会を実施します。
④ スポーツ指導者バンク制度の活用	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民の多様なニーズに対応し、生涯スポーツの推進を図るため、スポーツ指導者を登録し、指導者の有効活用を図ります。
⑤ 美し国三重市町対抗駅伝*本市代表チームの支援	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 県内29市町の振興を目的に開催される美し国三重市町対抗駅伝*に出場する本市代表チームの活動を支援します。

<到達目標 (5)- I >

目標名	全国大会等出場選手激励金・顕彰金の年間交付人数		
設定理由	全国大会等出場選手激励金・顕彰金の交付人数が増加することは、競技力の向上につながるとともに、ひいてはスポーツの裾野拡大の貢献につながるため。		
現状値 (2018年度)	526人	目標値 (2023年度)	550人

(6) スポーツを通じた地域の活性化

【現状と課題】

本市では、7千人の参加者を超える鈴鹿シティマラソンが開催されるほか、トップレベルの国内リーグで活躍するハンドボールやラグビーのチーム、日本フットボールリーグ（JFL）に昇格を果たしたサッカーのチームがあり、それらの試合を観戦することができます。

また、平成30（2018）年の全国高等学校総合体育大会（インターハイ）では、本市において4つの競技が開催され、スポーツへの関心が高まる中、その流れを受けて、三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功に向け取り組んでいます。

このような大規模スポーツイベント、トップレベルのスポーツ大会、そして、三重とこわか国体・三重とこわか大会などの大規模大会の開催は、市民に夢や感動を与え、一体感を醸成するだけでなく、交流人口の拡大を生み、地域の活性化につなげることができます。そのためには、本市の様々な地域資源を生かしたスポーツツーリズム[※]の取組も必要となります。

また、スポーツを通じた地域の活性化のためには、スポーツに「参加」する人だけでなく、「観る」人や「支える」人の存在が不可欠であるため、スポーツを「観る」機会を創出し、「支える」人材を養成することが必要です。

【取組概要】

鈴鹿シティマラソンやトップレベルのスポーツ大会を通じて、幅広い年齢層の市民のスポーツへの関心を高めます。また、スポーツを「観る」機会の創出や、「支える」人材の養成を進めます。

大規模なスポーツイベント、トップレベルのスポーツ大会、三重とこわか国体・三重とこわか大会などの大規模大会の開催を通じて交流人口の拡大を図ります。また、スポーツツーリズム[※]の推進によって、地域の活性化につなげていきます。

取組内容（取組の方向性）

① 鈴鹿シティマラソンの開催

- 県内外を問わず全国から参加者を募り、鈴鹿サーキットの国際レーシング場において、シティマラソンを開催します。
- シティセールスの場として、鈴鹿市の魅力を全国に発信するとともに、交流人口の拡大など地域の活性化を図ります。

② 地域にねざしたクラブチームの支援

- 地域スポーツの裾野が広がるよう、国内のトップリーグなどで活躍するクラブチームを支援するとともに、地域とクラブチームの交流促進を図ります。

③ ホストタウン*の推進

- 東京オリンピック競技大会のカナダアーティスティックスイミングチーム及び東京パラリンピック競技大会の英国パラスイミングチームの事前キャンプにおけるホストタウン*を活用した海外選手との交流事業を通じてスポーツの機運の醸成を図るとともに、地域の活性化に取り組みます。

④ スポーツを「観る」機会の創出、「支える」組織の構築

- 本市で開催される大規模スポーツイベントやトップレベルのスポーツ大会、三重とこわか国体・三重とこわか大会などの大規模大会の開催の機会を活用し、スポーツの魅力を発信する広報活動を通じて、スポーツを「観る」機会の創出を図ります。
- 三重県や関係団体と連携し、大会運営に携わるボランティアを募集し、スポーツを「支える」組織の構築を図ります。



<到達目標 (6)- I >

目標名	スポーツ観戦率（地域のスポーツ行事を含む。）		
設定理由	過去1年以内に、スポーツの試合を観戦、又は応援した市民が増加することは、スポーツを通じた地域の活性化につながるため。		
現状値 (2018年度)	32.6%	目標値 (2023年度)	40.0%

<到達目標 (6)- II >

目標名	スポーツに関するボランティア（地域のスポーツ行事を含む。）実施率		
設定理由	過去1年以内に、ボランティアとして大規模スポーツイベントなどへ参加した市民が増加することは、スポーツを通じた地域の活性化につながるため。		
現状値 (2018年度)	2.6%	目標値 (2023年度)	10.0%



(7) スポーツ施設の整備と利用促進

【現状と課題】

本市では、スポーツ施設の稼働率は良好に推移しているものの、施設の老朽化は著しく、長寿命化やバリアフリー化が求められています。

そのような中、利用者の安全・安心を確保し、スポーツに親しむ機会を引き続き提供するとともに、厳しい財政状況の中、優れたスポーツ環境を提供していくためには、整備から管理運営までトータルコストを適切にマネジメントしていく必要があります。

【取組概要】

市民ニーズの把握に努め、より多くの市民が快適で安全・安心に利用できる施設整備や、管理運営に取り組めます。

老朽化が進むスポーツ施設の機能の維持と安全性の確保を図るとともに、市民ニーズの変化に対応したスポーツ施設の改修を進めます。

また、地域におけるスポーツ活動の拠点施設となる学校体育施設の活用を促進します。

取組内容（取組の方向性）
① 快適で安全・安心なスポーツ施設の環境整備 ➤ 市民ニーズを反映した快適で安全・安心な利用環境を提供できるよう、施設の修繕などを行います。
② スポーツ施設の管理運営 ➤ 本市直営方式による管理運営の手法について十分な検証を実施するとともに、多様化する住民ニーズに対して、より効果的かつ効率的に対応するため、指定管理者制度を導入を図ります。



取組内容（取組の方向性）	
③ スポーツ施設の改修	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 本市の公共施設等総合管理計画における基本的な考え方に基づき，中長期的な視点を踏まえるとともに，優先順位を明確にしながら，長寿命化やバリアフリー化など，スポーツ施設の整備を図ります。 ➤ 西部地域のスポーツ・レクリエーションエリア※において，地域の活性化を見据えたスポーツ施設のあり方を調査・研究します。
④ スポーツ施設に関する情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 広報すずかやホームページで，施設の利用方法や利用状況，バリアフリー化の状況，スポーツイベントやスポーツ教室の開催，選手の活躍などの情報を発信します。
⑤ 学校体育施設の開放	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市内の公立小中学校の学校体育施設開放運営委員会のもと，地域におけるスポーツ活動の拠点として，利用促進を図ります。

<到達目標 (7)- I >

目標名	スポーツ施設及び学校体育施設開放事業の年間利用者数		
設定理由	年間利用者数の増加は，スポーツ施設が整備・充実され，多くの市民に利用されていることにつながるため。		
現状値 (2018年度)	869,454人	目標値 (2023年度)	950,000人

(8) 大規模大会を契機としたスポーツの推進

【現状と課題】

三重県では、2020（令和2）年に全国中学校体育大会、2021（令和3）年には三重とこわか国体・三重とこわか大会が開催されます。本市においては、三重とこわか国体で8つの正式競技と1つのデモンストレーション競技の会場地に選定され、三重とこわか大会では、2つの正式競技の会場地に選定されています。また、国では、2020（令和2）年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。

これら大規模大会の開催は、市民に広くスポーツに親しんでいただく機会であるとともに、本市のスポーツを推進する絶好の機会といえることから、このスポーツ機運の高まる好機を生かし、一過性のスポーツ推進とするのではなく、持続して取り組んでいく必要があります。

【取組概要】

市民のスポーツに関する興味・関心を一過性のものとすることなく、この大規模大会が残すレガシー^{*}を次世代に継承するような取組を、関係団体との連携のもと進めます。

取組内容（取組の方向性）
<p>① 三重とこわか国体・三重とこわか大会の情報発信</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 広報誌などへの掲載や、イベントの開催などにより、三重とこわか国体・三重とこわか大会の魅力を積極的に発信します。➤ ホームページを開設し、本市で開催される競技の紹介や実行委員会の活動状況などの情報をホームページで発信し、PRに努めます。
<p>② 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 本市では、三重とこわか国体の正式競技として8競技、デモンストレーションスポーツとして1競技、三重とこわか大会の正式競技として2競技が開催されます。会場市として、三重県をはじめとする関係団体と連携し、輸送・交通、医療・救護、警備など、各分野で準備を進めます。

取組内容（取組の方向性）

③ 大規模大会が残すレガシー*の継承

- 三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催によって創出される様々なレガシー*が市民の間に定着し、将来にわたって継続できるよう、スポーツに対する興味・関心の維持や人材の養成、また、ボランティア活動の維持・継続などに取り組みます。

＜三重とこわか国体・三重とこわか大会 本市開催予定の競技一覧＞

大会名	競技 / 種目	種別	会場
三重 とこわか 国体 	水泳／競泳, 飛込, 水球, アーティスティックスイミング   	全種別	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場
	サッカー 	成年男子	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラグビー場
	ハンドボール 	成年男女	A G F 鈴鹿体育館 三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 体育館
	ソフトテニス 	全種別	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 庭球場
	軟式野球 	成年男子	石垣池公園野球場
	馬術 	全種別	三重県馬術競技場
	ラグビーフットボール 15人制 7人制 	少年男子 女子	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラグビー場
	ゴルフ 	少年男子	鈴峰ゴルフ倶楽部
	エアロビック ※ デモンストレーション スポーツ 		A G F 鈴鹿体育館
三重 とこわか 大会 	水泳 	身体障がい者 知的障がい者	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 水泳場
	サッカー 	知的障がい者	三重交通G スポーツの杜 鈴鹿 サッカー・ラグビー場

第4章 計画の効果的な推進のために

1 計画の推進体制

(1) 関係部局との連携

スポーツは、従来からの競技スポーツのみならず、子どもの体力向上や健康寿命の延伸につながるような運動機会の提供、スポーツツーリズム[※]を通じた地域の活性化まで非常に多様化しつつあります。

また、計画期間中に開催される三重とこわか国体・三重とこわか大会などの大規模大会は、行政のみならず、あらゆる関係機関や団体などとの連携や協力により取り組む必要があります。さらに、大会後においても、大規模大会により創出される有形無形のレガシー[※]が活用され、交流人口の拡大や経済効果の創出など、スポーツを通じた地域の活性化に向け、関係部局が一丸となって様々な施策に取り組むことが重要です。

本計画のめざす姿の実現に向けて、本市では、各施策に関係する学校教育，健康づくり，高齢者福祉，観光振興，まちづくりなどの関係部局と連携し，総合的に取り組んでいきます。

(2) スポーツ関係団体との連携

鈴鹿市体育協会は、専門的な技能及び知識を有した地域の人材（市民）で構成された団体であり、その特性を生かして、各種スポーツ教室や指導者に対する講習会を開催するなど、地域でのスポーツの普及や競技力の向上に向けた事業などを実施し、本市の地域スポーツの推進、競技力の向上に関して重要な役割を担っています。今後も、鈴鹿市体育協会が、加盟する団体などと連携をしながら、本市のスポーツ推進に資することを期待し、本計画のめざす姿の実現に向けて、引き続き、連携を図っていきます。

2 計画の進行管理

本計画のめざす姿の実現に向けて、計画に基づく取組の進捗状況、成果や課題などについて、鈴鹿市スポーツ推進審議会に毎年度報告し、取組に関する意見を求め、適切に計画の進行を管理するとともに、必要に応じて見直しを図ります。



資料編

用語解説（50音順）

あ

■いきいきスポーツデー

「鈴鹿いきいきスポーツ都市宣言」の趣旨に基づき、市民一人ひとつのスポーツの実現をめざして、各地区の体育振興会などで、年間1日いきいきスポーツデーを設定し、それぞれの地区でスポーツ活動を推進しています。

■ウォーキングマップ

子どもから高齢者まで、誰もが一人ひとつのスポーツを楽しむ社会の実現に向けて、鈴鹿市スポーツ推進委員協議会が作成。現在、ウォーキングマップは9種類（18コース）あり、地区市民センター、公民館、市役所1階市民ロビー、9階スポーツ課窓口などに置いてあります。それぞれのコースは、どこからでもスタートできるように周回コースになっており、本市の史跡なども盛り込まれています。

■美し国三重市町対抗駅伝

県内のスポーツ推進及び市町の振興を図るため、平成20年に始まった市町対抗の駅伝大会です。津市の県庁前から伊勢市の県営総合競技場までの42.195km、10区間を小学生から一般選手がタスキをつなぎます。

か

■きらきらタイム

鈴鹿市の公立幼稚園における体力向上実践プログラムの名称



■ ずずか健康マイレージ事業

生涯を通じた健康づくりを推進するため、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の積極的な健康づくりへの取組をポイント化し、ポイントを付与還元することにより、健康づくりへの取組の一層の推進を図り、健康寿命の延伸をめざすことを目的に、2018（平成30）年7月から実施しています。この事業は、食事や運動など健康づくりにつながる目標を立て、実行することに加えて、各種の健康診査を受けることや、健康に関するイベントなどに参加することでポイントが貯まる仕組みとなっています。さらに、貯めたポイントに応じて特典を受けることができます。

■ 鈴鹿市運動部活動指針

運動部活動のあり方に関する調査研究報告書【2013（平成25）年5月27日 運動部活動のあり方に関する調査研究協力者会議作成 文部科学省発表】をもとに、鈴鹿市の部活動の意義や指導者のあり方、安全上の配慮や体罰の禁止などを示した指針【2016（平成28）年3月策定】

■ 鈴鹿市スポーツ推進委員協議会

スポーツ推進委員で組織し、市民へのスポーツ普及や広報活動、スポーツ推進委員の研修会などの事業を実施する協議会

■ スポーツ基本計画

スポーツ基本法の理念を具体化し、今後の我が国のスポーツ施策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体、スポーツ団体などの関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置付けられる計画

■スポーツ基本法

1961（昭和36）年に制定されたスポーツ振興法を50年ぶりに全部改正し、スポーツに関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務並びにスポーツ団体の努力などを明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めた法律

■スポーツ実施率

一定期間に一定回数のスポーツを実施した割合。例えば、週1回、週3回、年1回などのスポーツ実施率があります。

■スポーツツーリズム

プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などをめざす取組

■スポーツ・レクリエーションエリア

鈴鹿市都市マスタープランにおいて、農業共生ゾーンを活かしつつ、スポーツ・文化施設等の整備により交流機能の強化を図る地域として位置付けられたエリア

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査

文部科学省が2008（平成20）年度から年に1回実施している体力に関する調査。対象は、小学校5年生と中学校2年生、握力、50m走などの実技調査に併せ、運動習慣・生活習慣・食習慣などに関する質問紙調査が行われます。

■総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、①子どもから高齢者まで（多世代）、②様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、③初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参

加できる（多志向），という特徴を持ち，地域住民により自主的・主体的に運営される公益性・地域性を備えたスポーツクラブ

た

■地域づくり協議会

市民が地域の実情又は必要に応じて，一定の地域のまちづくりに取り組む組織である自治会や各団体などを，地域全体において包括する組織

な

■ニュースポーツ

サッカーやバスケットボールなどのように，ある程度の練習を必要とし，競争原理の強くはたらく近代スポーツとは別の，誰でも気軽にすぐに楽しむことのできることを目的に新しく考案され，アレンジされたスポーツの総称。その種目は，ファミリーバドミントンやソフトバレーボール，グラウンドゴルフなど数百種類あるといわれています。

は

■ビジネスパーソン世代

普段は仕事や家事，育児などで忙しく運動やスポーツに対してまとまった時間がとりにくく，習慣的にスポーツを実施する割合が低い世代

■ホストタウン

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として，地方自治体が大会参加国の「おもてなし」役となり，大会参加チームの事前キャンプや相互交流を通じて地域活性化などに取り組むことです。



■レガシー

三重とこわか国体・三重とこわか大会などの大規模大会の開催を契機として、本市に生み出される持続的な効果のことです。